

られたことと思ひ合せて愈々打ち切ることになつたのかと残念に思ふ次第である。HANCOCK 所長は老齡のため昨年7月1日で引退された筈で、その後、研究所の機構に変化が起きたのであろう。(時田 郁)

### Dr. ELENA S. SINOVA 女史(ソ連)の逝去

レニングラードの科学院植物学研究所隠花植物部門に属して戦前まで海藻の研究を活躍に行つておられた Dr. ELENA STEPHUROFNA SINOVA 女史とは、研究地域が近い関係上、筆者は早くから文通し論文及び標本の交換などを行つていたが、戦争と共に文通もとだえてしまい、終戦後女史の消息が心にかかつていたところ、1955年暮、Miss A. D. ZINOVA という未知の婦人から自著のアカデミー出版海藻教科書2巻を贈られたので、同姓であるし SINOVA 女史の消息を知りたい旨を礼状に書き加えておいたが、最近その返辞があつた。それによると SINOVA は自分の伯母で且つ教師であつて、伯母は戦争の最中、1942年に、当時閉鎖されていたレニングラードで死亡したとのことである。ここに SINOVA 女史の逝去をお伝えし心からの弔意を表するものである。A. D. ZINOVA 女史は同じ研究所に属して、現在、樺太と千島の海藻を研究中であるという。上記教科書巻末の文献の中に、白海、ムルマン海、あまのり、だるす、べにふくろのり、などに関する自著6篇をも列挙している。(時田 郁)

### 新 著 紹 介

岡 村 金 太 郎 著

## 日 本 海 藻 誌 第 二 版

本書は周知の如く昭和11年発刊以来我国海藻学の宝典として我近海の花藻研究調査に際しては不可欠の書であることは述べる迄もない。然し甚だ残念な事には其の後第二版の刊行が後れていた為入手の法なく海藻学界に於ては非常な不便が感ぜられていた。併し此度愈々その第二版が刊行の運となることは誠に喜びに堪えない。此の第二版刊行の後れた原因に就ては其の責筆者に存する事が尠くないので、此処に少しく其の間の事情を述べておき度いと思ふ。

願れば既に数年以前になるが発行所内田老鶴園は本書の再版発行を企画、著者の嗣子岡村一郎氏と共に筆者に、かねて故岡村先生との御話合による本書の追補と共に刊行いたし度き旨の話があり、其の際の相談により再版は初版其の儘とし増補の部は全く別冊として同時に刊行、以て初版の所有者の便をもはかる事とした。処が筆者其の後身辺多忙で増補の部遅々として進行せざる為遂に此度再版の部を先ず刊行、増補の部は極力早くに之を

取りまとめ追って刊行する事となつた次第である。本書初版刊行以来既に20年を経る故に記載されている種の内には多少名称の変更等もあるが、固よりその記載の価値は之によつて少しも損われるものではなく、我国海藻の研究に當つて不可欠の宝典であることは20年前と少しも変らない。尙この20年間に我がフロラに追加された種については目下編纂中の増補の部に於て変更された種名等の訂正と共に記載文等が与えられる予定である。此處に本書の再版刊行を紹介しその刊行遅延についての筆者の罪を謝する次第である。

(山田幸男—北海道大学理学部植物学教室)

## 學 會 録 事

去る4月6日東京都に於て行われた昭和31年度日本水産学会大会第3日目の講演終了後、新崎盛敏・須藤俊造両氏の御世話のもとに会長他会員約30名が集まつて懇親会を催し極めて盛会であつた。尙この会合の開催については時間的余猶なく全会員にお知らせできなかつたことは遺憾であつた。又当日種々この会合のために特別の御厚意をいただいた会員協和醗酵工業株式会社東京研究所木下祝郎氏に謝意を表します。

## 御 知 ら せ

### 日本藻類学会第4回総会開催

来る7月12日から14日迄日本植物学会第21回大会が札幌市、北海道大学で開催されるに際しその前日7月11日に本会本年度総会を開催の予定です。尙詳細は決定次第御通知いたします。